

## 医政メモ Q&A

### 骨太の方針2007について一口メモ

政府は6月19日の臨時閣議で、安倍政権としてははじめての「経済財政改革の基本方針2007（骨太の方針）」を決定した。そこで医療分野での主な問題点について6月4日に提示された素案との変更点を交えながら解説を試みる。

**Q：社会保障分野での方針の内容は**

**A：**昨年示した歳出・歳入の一体改革を確実に実現させるため08～12年度の5ヵ年計画「医療・介護サービスの質向上と効率化プログラム」を推進し、両者間の高コスト構造を是正すべきとの文言を盛り込んだ。また、レセプトオンライン化については「請求システムの標準化、互換性などの環境整備」に配慮することが盛り込まれた。さらに医師と他の医療従事者との役割分担の見直しでは「業務範囲、責任の所在」が加わった。06年度で示した制度改革の進捗状況や今後の取り組みに関して期限の明示がなく実効性を伴わなかったことを踏まえ、今年度では明示にこだわった。

**Q：その他の方針内容**

**A：**持続的で安心できる社会の実現として「緊急医師確保対策」にもとづき、医師確保

のための緊急対策に取り組む。小児医療や周産期医療の提供体制の充実やドクターヘリを含む救急医療体制の整備を進める。「新健康フロンティア戦略」を推進するため、07年内に実施計画を策定する。また、「がん対策推進基本計画」にもとづき、がん対策に総合的に取り組むとともに、難病対策や肝炎対策を推進する。

**Q：これらに対する日本医師会の反応は**

**A：**唐澤会長は定例会見で、歳出削減が引きつづき強調されている点について、「すでに決まっている医療制度改革だけでも今後5年間で4兆円の削減を余儀なくされている。診療報酬の引き上げをもって、行き過ぎた改革から引き返すべきだ」と強調。さらにレセプトオンライン化については請求システムの標準化や互換性などの環境整備に配慮すること。医療従事者の役割分担の見直しでは業務範囲や責任の所在を重視すること。この2点が原案の段階から新たに加わったことを評価し、「日医のロビー活動の成果だ」と述べた。

(政策部担当理事 水谷 匡宏)